

2 0 2 0 年 度

第 1 回

2 科 4 科

入 学 試 験 問 題

国 語

試験時間 45分

注 意

- 試験開始の合図^{あいず}があるまで、この問題冊子^{さつし}を開いてはいけません。
- 問題は□から□の10ページにわたって印刷してあります。足りないページや、印刷が分かりづらいところがあった場合は、手をあげて監督^{かんとく}者に申し出てください。
- 解答用紙と問題冊子の決められた場所に受験番号を記してください。
- 答えはすべて解答用紙の決められた場所に記入してください。
- 答えを直すときは、きれいに消してから新しい答えを書いてください。
- 監督者の指示にしたがって解答用紙を問題冊子とともに提出してください。
- 特に指示の無いかぎり、句読点や記号は1字で数えます。

佼成学園女子中学校

受験
番号

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昨日の雨が嘘のように晴れたその日の朝、引越したてのきれいなキッチンで、ママは張り切ってほうれん草が真ん中に入った卵焼きとか、うずらの卵とミートボールを爪楊枝に突き刺したものと、醤油とお酒で味付けをした唐揚げとか、いろんなおかずをたくさんつくって重箱に詰めていた。

① ケチャップが煮込まれたにおいとシヤケの焼けるにおいがどんどん混じり合って膨らんで、ママの鼻歌と一緒に踊りながらこっちにやってくる。

においにつられてキッチンに向かったわたしは、出来立ての卵焼きを手でつかんだ。一口食べたところでママと目が合い、「もらっていい？」と尋ねた。

ママはちゃんとお箸で食べなさいという代わりに「端っこがおいしいで」と笑う。

新しい家での新しい秋のその朝は、二年生のわたしと六年生のおねえちゃんが通う小学校の運動会だった。

我が家は、春日池という池を埋め立ててできた新興住宅の並びにある一軒家だ。この運動会の日から一ヶ月ほど前に、隣の家と壁一枚という団地から引越してきた。かろうじて夫婦をやっているようなパパとママが、必死の思いでローンを組んで念願のマイホームを買ったのだった。

家の前の真新しい道路の向こうには一面の田んぼがあって、五分刈りの頭みたいにごくごくに短くなった稲がベージュ色の世界を広げてい

た。

夏の力強い緑色のときよりもずいぶん暖かく見える、そのやわらかい景色を、わたしはずっと好きだったように思う。

わたしとおねえちゃんが学校に行ったあと、運動会が始まる直前になつてうちのパパとママはやってきた。家族観覧の場所取りができなかったので、校庭の隅このわかりにくい場所にオレンジ色のレジャーシートを敷いていた。

しかし、② 隅っこでも「うちの親はどこ？」と探す必要がなかったのは、白いミニスカートに白いポロシャツを着て、ふわふわの茶色い髪に緑色のスカーフを巻いたママが、大きなサングラスをかけて座っていたからだ。

そこだけスポットライトが当たったみたい周囲から浮いているママは、なんだか派手で、お母さんという気配をぜんぜん身につけていない女の人だった。

そんなママがとりわけ目立ったのは、おねえちゃんがリレーで三人抜きとして一番になったのを見て飛び跳ねて叫んだときではなく、運動神経の鈍いわたしが徒競走で周回遅れになって、たった一人でグラウンドを

(A) 歩くような速さで走っているときだった。とにかく恥ずかしくて辛くて泣きそうになっていると、「ほのみ〜ふあいと〜ふれふれ、ほのみ〜」

というママのかけ声が聞こえてきた。顔を上げると、ママはわたしが走っているトラックのそばまでやってきて、頭に巻いていた緑色のスカーフを手を持って振り回し、一人で足を上げたりしながら踊っていた。

生徒も先生も他の親も、もはやわたしではなく、キョトンとしてママを見ており、わたしはもつと恥ずかしくなって、知らない人のふりをし、目の前を通りすぎた。だけど、ママはわたしがゴールをするまで何度も何度もわたしの名前を呼んでいた。

「隅っこの席でよかつたわ、ママがそんな格好で恥ずかしい」

お昼休憩きゅうけいのとき、おねえちゃんがお赤飯のおにぎりをかじりながらむつつりいった。

「恥ずかしいのん？」

「もう、そんな格好するんやったら、来んこといて欲しい。わたしはもうこの学校の運動会は最後やけど、ほのみも恥ずかしいやろ？」

「うん……」おねえちゃんに促うながされて、わたしはうなずく。

「そやけど、お前、すごかつたなあ。リレーも最後追い抜かして一番になるし、障害物競争でもハードル越こえるの速いし、全部一番や」

パパがおねえちゃんを褒ほめて、そのあとわたしの方を向いた。

「おまえはもつと、がんばらなあかな」

③ あんた、唐揚げはっかかり食べたらずどものぶんがなくなるさかいに、こっちの肉団子にして……」

「おう」

④ パパは返事をしながら、買ったばかりのカメラに油がついていることにも気づかず、次の唐揚げに手を出していた。

冷たい麦茶の入った水筒すいとうを振ふると、まだ溶とけてない氷が揺ゆれて

(B) 鳴る。

パパからもうなにもいわれたくなかつた。

でもきつともう一回「もつとがんばれ」といわれる。

⑤ わたしはお赤飯のおにぎりをひとつ急いで頬張ほおほると、立ち上がった。「ほのみちゃんどこいくの？」

ママの声に「トイレ」と答えてそこから逃げた。

校舎のほうに歩いていくと、わあわあと背中を追いかけてきた人の声こゑと騒さわがしい音が、だんだん遠ざかっていく。

わたしだって、一生懸命けんめいに走った。手を速く振ればいいとおねえちゃんがいったから、そのとおりにやった。

それでもあれだったんだ。

誰だれもいなくなつたところで立ち止まって、自分の履はいている白い運動靴ぐつを見たら、涙なみだがそこに落ちた。

「ほのみちゃん、どこいったかと思つたわ」

顔を上げると、目の前にママがいた。

「あ、ママ……」

涙のことはなにもいわずに、ママは普通ふつうの顔をして尋ねる。

「なに、トイレいくのやろ？」

「う、うん」

「そしたらママもいくところやねん、こっちやろ？」

「そう、そっち」

⑥ さつきは……」

「ごめん」

ママがいいかけたので、わたしは急いでいう。

「おねえちゃんは、あんなかつこええのに、ほのみは、ぜんぜんダメで……」

ママもわたしを遮おさつていう。

「あんな！ 足が速いとか遅おそいとかって大人になつたらぜんぜん関係な

いねん！ オナラくらいしようもないから、気にしんとき。あゝおしっこたれぞ、ママ、ちよつと走るで」

「え？」

「あんたも、さつきおしっこ我慢して走ったらよかったのに。絶対ちよつと速くなるわ」

大人なのに、ママは廊下を走っていく。ほんとうはトイレなんて行きたくなかったくせに、わたしは急に尿意を感じて、走るママの背中を笑いながら追っかけた。

（和田裕美『タカラモノ』）

*本文には、作問の都合上、改変した部分があります。

100

問一 —— 線部①「ケチャップがぐやってくる」とありますが、この部

分の表現について説明したものととして最も適当なものを次の中から
選び、記号で答えなさい。

ア シャケの美味しそうな「におい」が、ママの鼻歌と混じり合って
台無しになってしまう様子が表現されている。

イ 「ママの鼻歌」が、ケチャップとシャケの「におい」よりも魅力
的なものとしてありありと表現されている。

ウ 「におい」とママの鼻歌が「一緒に」やってくると描くことで、
料理がママの自信作であることが表現されている。

エ ケチャップとシャケの「におい」が、あたかも人間の動作である
かのようにいきいきと表現されている。

問二 —— 線部②「隅っこでも『うちの親はどこ?』と探す必要がなかつ

た」とありますが、それはなぜですか。次の文の [] に当ては
まる表現を文中から十字以内でぬき出して答えなさい。

ママが [] 状態だったから。

問三 (A)・(B)に入る表現として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A ア ぬるぬると

イ とろとろと

ウ くるくると

B ア カラカラと

イ チラチラと

ウ キリキリと

問四 ——線部③「あんた、唐揚げ〜肉団子にして……」とありますが、

この時の「ママ」の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 徒競走で負けた「わたし」にいらだつパパをなぐさめようとしている。

イ 徒競走から話題をそらして、「わたし」を暗い気持ちにさせまいとしている。

ウ 運動会の話よりも、自分が張り切って作った肉団子を食べてもらおうとしている。

エ 運動会の話で盛り上がるよりも、お昼休憩くらいは食事を楽しもうとしている。

問五 ——線部④「パパは返事を手を出していた」とありますが、この場面で「パパ」はどのような人物として描かれていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア カメラに油がついたら壊れてしまいかもしれない、という予測すらできない鈍感な人物。

イ ママの忠告を聞き入れたふりをして、大好きな唐揚げに手をのばすずるがしい人物。

ウ 関係が良好ではないママの言葉におびえ、食べることでごまかそうとする臆病な人物。

エ よく言えばおおらかだが、一方で人の気持ちを思いやることのできない無神経な人物。

問六 ——線部⑤「わたしはお赤飯のおにぎりをひとつ急いで頬張ると、立ち上がった」とありますが、なぜ「わたし」はこのような行動を取ったのですか。本文中の言葉を用いて、四十字以内で分かりやすく説明しなさい。

やすく説明しなさい。

問七 — 線部⑥「さっきは……」とありますが、ママの言葉はこの後どのように続くと思いますか。適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 徒競走で負けてしもたけど、気にしんとき。
- イ パパがひどいこと言うて悲しませてごめんな。
- ウ ほのみを勝たせてあげられなくてごめんな。
- エ ママが派手な格好で恥ずかしかったやろ。

問八 この文章から読み取れる内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ママは周囲の目や世間の常識を気にかけない人物だが、ユーモアにあふれた言動と深い思いやりで、ほのみを笑顔にしてくれる不思議な魅力がある。
- イ ほのみとママがトイレに行きたくなったタイミングが偶然にも同じだったことから、ママがほのみのことを心から愛していることがしっかりと伝わる。
- ウ パパとママとは大きく感性が異なっているが、子どもたちがそんな両親の間をうまく仲立ちしているので、かろうじて夫婦をやっている状態である。
- エ おねえちゃんは自分を褒めてくれるパパを好いているが、ほのみは自身の努力を認めてくれないパパのことを強く憎み嫌っていることが分かる。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

間近で見られるようになったといっても、ぼくの立場は、さしずめゴリラ一家にホームステイした学生というところでしょうか。いっしょに過ごさせてもらいながら、ゴリラ語や彼らの暮らしのルールを徐々に学んでいきました。

①「居候三杯めにはそつと出し」という川柳を、知っていますか？

最初のころは、ぼくもゴリラ一家の中で遠慮がちに小さくなっていました。ちやぶ台を囲んで、和気あいあいとだんらんしている大家族の、いちばんはしつこのほうでおとなしくしている。だれかから話を振られたら返事はしますが、こちらからはけつして主張はしない、という感じ

です。でもそのうち、遠慮しながらも、三杯めのごはんのおかわりを差し出せるようになるのと同じで、少しずつ要求ができるようになります。たとえば、彼らの毛むくじゃらの腕を見て、本当のところどれだけ太いんだろう？ と気になれば、ちよつと握つて確かめてみます。そういうことをしても、嫌がられなくなってくるのです。

そこまでの間柄になるには、やはり時間がかかります。ここまでなら怒られないかな？ という感覚をつかまないとはいけませんからね。知つてのとおり、ゴリラは人間に比べて大きい。大人のオスゴリラの体重は二百キロ近くあつて、もちろん力も強い。怒つたムシヤムカに太ももをわしづかみにされて、筋肉の一部をちぎりとられてしまった人もいたくらい、ものすごいパワーの持ち主なんです。

いっしょに雨宿りをしたタイタスはまだ子どもでしたが、それでも顔はぼくの二倍ほどありましたし、手首なんかぼくの指がまわらないぐ

らい太かった。若いオスやメスでも体重が百キロ以上もあるんです。

ゴリラたちがぼくを信頼してくれるのは、掛け値なしにうれしいことですが、いっしょに遊ぶといつても、こちらは命がけ。向こうはじゃれてるつもりでも、かまれたらケガをするし、つかまれたらぼくの腕なんて簡単にねじられてしまうかもしれない。だから、「まな板の上の鯉」ではありませんが、まずはされるがままです。

百キロ以上もあるメスのゴリラ、パックがぼくのひざの上に、背中を向けてどっかり座つてきたこともありました。ぼくをからかうつもりだったのでしょうか。どいてくれる気配がさっぱりないので、仕方がないから、彼女のわきをくすぐったり、ちよつかいを出したりしていました。結局、三十分以上も、百キロの巨体をひざにのせたままでした。

ゴリラの観察をするときも、彼らが何を嫌がるか、どのへんまでなら許してくれるか、探りながら慎重にやらないといけません。

②ただ、ぼくは、相手がゴリラだからこそ、ホームステイに行けたんだ、ホームステイを許してくれたんだと、つくづく思うのです。

ゴリラの調査に行く前には、長野県の地獄谷や、鹿児島県の屋久島でニホンザルの調査をしていたことがあります。

ニホンザルもゴリラも、人間と同じ霊長類。(A)、ゴリラとニホンザルとではだいぶ様子がちがいます。ニホンザルはやっぱりどこかで人間を怖がついて、向こうからかなり距離をとってきます。「クー」という彼らの声をまねしてもけつして答えてはくれないし、ぼくが意にそわないことをすると、「ゴツゴツ」といって威嚇してくるだけです。

かたやゴリラは、ぼくが何か変なことをすると、注意をうながしてきます。ぼくが「グフーム」といって近づこうとすると、「コホッコホツ

(X)「」といってくることもある。それじゃあ、と思って別の行動

をとると、「うん、そうそう、それでいい」という感じで受け入れてくれる。そうやって彼らは、ゴリラの言葉を使って、ぼくにゴリラのルールにそった行動をさせようとします。ゴリラの生活やコミュニケーションを教えてくれる「先生」になってくれるというわけです。

もちろん、ぼくのことをゴリラとは思っていません。だけど、ゴリラと同じふるまいができる人間で、ある意味では仲間だと認めてくれるのでしよう。

ヒトリゴリラのタイガーが、ぼくのそばでいびきをかいて寝ていることもありました。

ヒトリゴリラとは、群れを離れて一頭で生活しているオスのことです。オスのゴリラは、ちょうど思春期の十二歳ころに、もともといた「家」から出ていきます。最初は実家の集団の近くで暮らし、だんだんと行動範囲を広げていく。そのうちに、別のゴリラの集団と出会って、気に入ったメスを見つけると、誘い出すのです。それに成功してはじめて、自分の「家族」を作ることができる。思春期は、親離れをして、たった一頭で生きていかなければならない試練の時期でもあるのです。

タイガーは当時十五歳でした。ぼくのそばで眠りはじめ、夢でも見ているのか、たまにうなされるように「ウー」とうなっていました。そういう姿をそばで見ていると、ヒトとゴリラという種をこえて、なんだか同じ動物として、気持ち手が手にとるようにわかる気がします。「ああ、こいつもなかなか苦労しているんだなあ」と自然に思えてくるのです。

彼らとそうやって生活をしていると、ふと思うことがあります。

ぼくはゴリラたちのところへホームステイをさせてもらえたけれど、もし反対の立場だったら、どうだろう、と。人間の家にゴリラがホームステイをしに来たら？ ちょっと想像できないでしょう。

自分の土地や家に野生動物が入ってくることを、人間は基本的に許しません。でも、彼らは許してくれるのです。長いことそばに座っていて、気にしないほどよく無視してくれます。

野生動物たちは、敵を完全に排除することなどできないと知っています。もしかしたら「敵」とさえ思っていないかもしれない。ぼくに何度も突進をかけてきたムシヤマカにしても、彼が本気になれば、ぼくを倒すぐらい、たやすいはず。でも、そうはしなかった。ちよつと脅しをかけて、これ以上近づくなという警告をしただけでした。彼らは徹底的に相手を抹殺しようなんて、考えないのです。人間とはちがって。

でも、彼らと共通の祖先を持っている人間も、かつては当たり前のようにいろんな生き物たちと、森でいっしょに暮らしていました。(B)、敵と考えるような悪さをする動物とも共存できることを忘れてしまっているだけで、人間も本当は③そういう心をもっているはずだと、ぼくは思うのです。

(山極寿一『ゴリラは語る』)

*本文には、作問の都合上、改変した部分があります。

問一 (A)・(B) に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ でも ウ もちろん エ だから

問二 ——線部A「和気あいあい」、B「掛け値なしに」の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 和気あいあい

ア 興奮して飛びはねている様子

イ 遠慮してよそよそしい様子

ウ 落ち着かないで緊張きんちやうしている様子

エ うちとけてなごやかな様子

B 掛け値なしに

ア すなおに

イ 大きさに

ウ 遠回しに

エ ひかえめに

問三 ——線部①「居候三杯めにはそっと出し」とありますが、この川柳の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア よその家庭に厄介やくかいになっているため、何をするにも気を使ってしまいが、親しんでくればどんな要求でもできるようになるということ。

イ 自分の家庭に他人を住まわせているため、お互たがいに遠慮してしまひ、自分のやりたいことも言い出しづらい環境かんきやうであるということ。

ウ 他人の家庭に一時的に住んでいる関係で、家主の顔色を気にせねばならず、自分のやりたいことが言い出しづらい状況じやうきやうであるということ。

エ 自分の家に宿泊しているお客さんとは最初ぎくしゃくするが、互いを知るに従って小さなわがままも言えるような関係になるということ。

問四 ——線部②「ただ、ぼくはー思うのです」とありますが、それはなぜですか。ニホンザルと比べながら、七十字以内で説明しなさい。

問五

X

にはゴリラの「コホッコホッ」が伝えたい内容が入りませんが、当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア その調子だ
イ それはちがうぞ
ウ なるほどなあ
エ なにか用事？

問六

——線部③「そういう心」とはどういう心ですか。「心」につながるように、本文中から二十五字以内でぬき出して答えなさい。

問七

本文の内容にあてはまるものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア ゴリラ一家にホームステイをし、ゴリラの生態を知ること、筆者は絶滅寸前のゴリラたちを救おうとしている。
イ ムシヤムカは家族に勝手に入ってきた筆者に怒り、太ももをわしづかみして筋肉の一部をちぎりとってしまったことがある。
ウ タイガーは思春期を迎えたオスとして実家を離れ、気になったメスを見つけて「家族」を作ろうとしているが、いろいろと苦労している。
エ 野生動物もまた、脅しや警告を無視しようとする相手に対しては、人間と同じように徹底的に抹殺しようとする。
オ 筆者はゴリラと人間の違いを認めつつも、祖先を同じくするゴリラの生態を知ること、人間がもともと持っていたものを知ろうとしている。

三

①～⑩の――線部について、カタカナは漢字に、漢字はひらがな
に直して答えなさい。

- ① 山の中腹で引き返した。
- ② 寒暖の変化が少ない地域だ。
- ③ 今始めるのは得策ではない。
- ④ 空模様があやしくなる。
- ⑤ 訳知り顔で話す。
- ⑥ わずかにゴサが生じた。
- ⑦ 家計のシユウシがつり合う。
- ⑧ 親コウコウな子だ。
- ⑨ 的をイた質問だ。
- ⑩ 目をトじてください。

四

次の①～⑤が対義語の組み合わせとなるように、後の語群から適
当なものをそれぞれ選び、漢字に直して答えなさい。

- ① 許可 | 止
- ② 応答 | 質
- ③ 現在 | 去
- ④ 容易 | 難
- ⑤ 損害 | 利

【語群】

か ぎ えき こん きん